



# 共に創り、つなく、稲作情報 vol.4

南会津農林事務所 農業振興普及部 Tel 62-5262

南郷普及所 Tel 72-2243

令和5年6月12日

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36250a/inasakugijyutuiyouhou.html>

この資料は、令和5年6月7日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

☆適切な水管理で有効茎数を確保しましょう！

☆残草は早めに除草しましょう！

☆いもち病対策をしましょう！

### 【農作業中の熱中症に注意しましょう！】

県内では毎年5月上旬から農作業中の熱中症が発生しています。熱中症を正しく理解し、予防に努めてください。7月～8月は特に注意が必要です。

### 【農薬危害防止運動実施中！6/10～9/10】

農薬の安全かつ適正な使用、使用中の事故防止及び環境に配慮した農薬の使用等を推進するため、福島県では、毎年6月10日から9月10日までの3か月間、農薬危害防止運動を実施しています。

## 1 天気予報(6月8日仙台管区気象台発表の1か月予報 期間：6月10日～7月9日)

平均気温は高い、降水量、日照時間はほぼ平年並の見込みです。期間をとおして、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

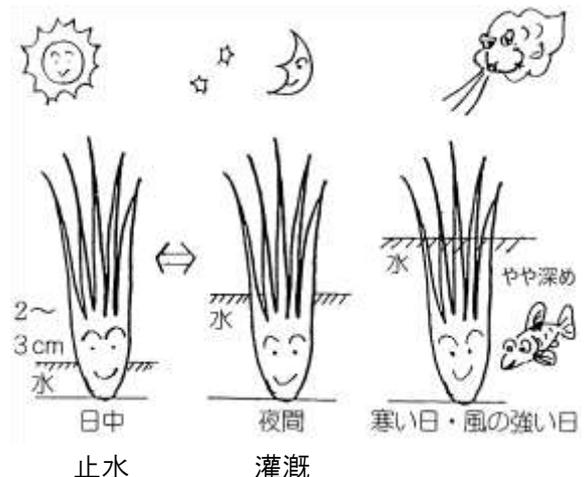
## 2 水管理

### (1) 分けつ期(活着後～7月上中旬)

○活着後は浅水管理(2～3cm)で水温の日較差を大きくし、分けつの発生を促します。

○寒い日・風の強い日は、やや深水とします。

★生育が停滞している(分けつが遅い、発根が弱い、根が黒色に変色)場合は  
土壤中のガスが原因と考えられるため、  
2～3日落水し、ガス抜きしましょう。



### (2) 有効分けつ決定期～幼穂形成期前(7月上中旬)

○茎数(コシヒカリ 20本/株, ひとめぼれ 25本/株)を目安に中干しを実施しましょう。

★中干しの程度は、田全面に小ヒビが入り、軽く足跡がつくぐらいです。

★生ワラ施用田や粘質土壌、生育過剰田では強めに、地力のない田や砂質土壌、茎数が少ない・葉色が薄い田では軽く干す程度に実施しましょう。

## 3 雑草対策

○残草が目立つ場合には草種に応じて中期剤や後期剤を使用します。残草の種類と葉齢を確認し使用時期及び施用量を守って使用してください。

○畦畔等の雑草は斑点米カメムシ類の温床となるため、出穂10日前までに数回刈払いを実施しましょう。

### 《移植水稻における除草剤（中～後期剤）の例》

※バيسコープ1キロ粒剤、ツイゲキ1キロ粒剤は、各種雑草の散布適期を確認し使用してください。

適用雑草	除草剤	施用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
ヒエ	ヒエクリーン 1キロ粒剤	1kg /10a	移植後 15 日～ヒエ4葉期 (ただし、収穫 45 日前まで)	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
ウリカワ、オモダカ、クログワイ、シズイ、ヘラオモダカ、ホタルイ、ミスガヤツリ、一年生雑草(ヒエを除く)	バيسコープ 1キロ粒剤	1kg /10a	移植後 14～60 日 (ただし、収穫 45 日前まで)	湛水散布、ごく浅く湛水して散布又は無人航空機による散布	1回
一年生雑草及び多年生広葉雑草、アオミドロ・藻類による表層はく離	ツイゲキ 1キロ粒剤	1kg /10a	移植後 14 日(稲5葉期以降)～ヒエ4葉期(ただし、収穫 60 日前まで)	湛水散布	1回

### ○藻類の対策について

移植直後に藻類が多発生すると水温や地温の低下、苗のなぎ倒し、肥料養分の収奪等により分けつを抑制してしまふことがあります。

【対策1】：中干しを行い、軽く田面を干す。

【対策2】：藻類（アオミドロ）に登録のある除草剤を散布する。

### 《藻類に登録のある除草剤の例》

薬剤名	適用雑草	施用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
モゲトン 粒剤	藻類 (アオミドロ・アミドロ)	2～3kg/10a	ウキ草類、藻類の発生始～発生盛期(ただし、収穫 45 日前まで)	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	3回以内
	藻類による 表層はく離	2kg/10a	藻類・表層はく離の発生時(ただし、収穫 45 日前まで)	水口施用	3回以内
		1～2kg/10a		湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	3回以内

## 4 いもち病対策

○いもち病は、夏季の低温、多雨、日照不足の気象条件により感染好適条件となります。葉いもちの早期発見に努め、適期に防除しましょう。置き苗は廃棄しましょう。

### ＜予防剤＞

箱処理剤を施用していない場合は、水面施用剤で防除しましょう。

薬剤名	施用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
フジワン 粒剤	3～5kg/10a	葉いもちに対しては初発7～10日前、穂いもちに対しては出穂10～30日前(ただし、収穫30日前まで)	湛水散布	2回以内
コラトップ 粒剤5	3～4kg/10a	葉いもちに対しては初発10日前～初発時、穂いもちに対しては出穂30日前～5日前まで	散布	2回以内

### ＜いもち病の予測＞

福島県病虫害防除所ホームページにて発生予察情報を公開しております。

BLASTAM (<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/blastam-2023.html>)から確認し、日々の対策にご活用ください。